

会社勤めで学んだ地域志向

11月1日、美甘地域の香齋館に行列ができました。

この日、「ぶちとみかもつと！」というイベントが開かれ、古代米を使ったパンやクッキー、シフォンケーキなどの限定商品が販売されたのです。「いろんな人たちと一緒につくりました」と話すのは実行委員の1人、横山明子さんです。

横山さんは、市内の会社で28年間、経理や総務の仕事をしていました。「当時の社長からは、本来の仕事以外にも、地域活性化には外貨獲得内需拡大の必要性や一次産業の重要性など、地域貢献の精神を学びました」と、横山さんにとつて会社は地域のことを考える場でもあつたようです。横山

さんは定年退職を前に、ふと地元である美甘のことを考え、何かできることはないかと思うようになりました。

いろんな人に助けられ少しずつ形になる思い

横山家が米屋を営んでいることもあります。横山さんが目を付けたのは、以前から地域で栽培、販売されている古代米でした。「美甘の古代米を多くの人に知つてもらいたい。その特性を生かした商品を作つてみたい。そう口にしていたら、いろんな人たちが助けてくれました。古代米や美甘地域のことを調べて素敵なイラストを作つてくれたり、古代米の米粉を作つてくれたり…。自分1人ではできないことが形になり、本当に嬉しかったです」と話す横山さん。実は美甘地域以外にも、縁あつ

横山 明子

Yokoyama Akiko

真

M A N I W A B I T O

庭

人



地元デザイナーと一緒に古代米の新商品開発に挑戦



横山明子さん(美甘)

美甘(M)をピンポイント(P)で面白く(O)するというコンセプトの団体「MPO法人ミカモノ」の一員として、古代米を活用したイベント「ぶちとみかもつと！」のきっかけをつくった1人。

夫の実家である横山商店で、古代米の新しい商品を開発しようと挑戦中。

て蒜山地域の産業にも関わっています。「ひるぜんワインさんと一緒に、ヤマブドウの絞りかすで何ができるかと考えました。それと、剪定されたヤマブドウの枝をいただいて、古代米のドライフラワーと組み合わせたりースを作りました」。思いを形にすることは、簡単なことではありません。でも横山さんは、「これからも人ととのつながりを大切にして、自分のできるところから少しずつ、いろいろな人たと楽しくチャレンジしていきたいです」と笑顔でした。

19

2020

まにわびと